

実施概要

体験活動安全管理講習～水辺編～

主催: 国立青少年教育振興機構教育事業部企画課

会場: 国立大隅青少年自然の家

日程: 平成25年6月13日(木)～15日(土) (2泊3日)

参加者: 27名

1. 事業趣旨

体験活動における指導者の安全管理意識及び指導・救助技術の向上を図る。

2. 事業概要

(1) 講義「水辺活動におけるリスクマネジメント①」

講師: 千足 耕一 氏

◆ 講義内容

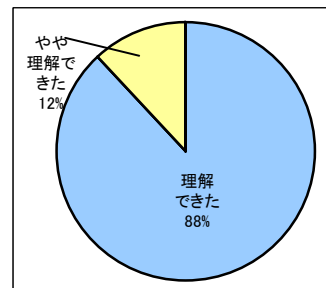
水辺活動中の安全管理能力向上のための事前準備や視点などについて

◆ 講義のポイント

- 1) 水辺活動では、①いかに活動中に発生する事故やトラブルを防止するか②事故発生時に最小の費用と時間で、事故やトラブルからもたらされる損失をいかに最小限に抑えるか③いかに法的責任を回避するかが必要である。
- 2) 事前準備ではどのような目的で事業を行うのかよく考える。「例年実施しているから…」は事故につながる。
- 3) 水辺活動ではバディシステムを徹底する。

◆ 参加者アンケートから

- ・危険要因を発見することだけが安全に繋がるわけではなく、事業の目的や目標を理解することがリスクを少なくすることも分かった。
- ・リスクマネジメントの方法やポイントが分かった。再度自施設でもマニュアルを見直したい。
- ・リスクについて話を聞く中で、自施設の不足点がいくつもあることに気付いた。今後、穴埋めしていかなければならないと感じた。



(2) 実習・演習「水辺活動の指導および安全管理の実際」

講師: 千足 耕一 氏、布野 泰志 氏

◆ 実習内容

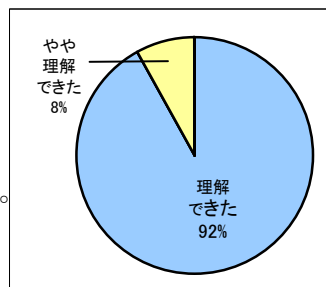
- 1) 備品、装備のチェックポイントについての確認
- 2) 出廷前の観天望気について(大隅青少年自然の家を例とし行った)
- 3) カヌーを実際に使い、落水からのリカバリー方法、漕げなくなった参加者への対処、要救助者の救出方法、牽引方法、曳航方法、曳航道具などを学ぶ。
- 4) 実習後にグループ毎で実際にどのような危険があったかを協議する。

◆ 実習のポイント

- 1) ライフジャケットをきちんと装着しているかバディで確認をする。また、入水後再度確認をする。
- 2) 緊急時のサインは事前に全員で共有をしておく。
- 3) カヌーが沈した場合や漕げなくなった参加者への対処方法を事前に陸や浅瀬で練習をする。
- 4) 要救助者をカヌーや、救助艇に引き上げる時は腕を掴むと骨折や脱臼する可能性があるため、ライフジャケットを引っ張る。
- 5) カヌーの洗浄は劣化しやすい金具部分を重点的に行う。

◆ 参加者アンケートから

- ・レスキュー法、ロープワークなど新しいことも学べてとてもよかった。
- ・活動の開始から終了までの手順及び指導法等を体験できた。特にセルフレスキューを今後の活動の参考にしていきたい。
- ・場所、設備等様々な状況に応じて安全管理を行うことが大切である。また、目的やねらいによっても指導内容に違いがあることもわかった。



(3) 講義「水辺活動におけるリスクマネジメント②」

講師: 松下 雅雄 氏

◆ 講義内容

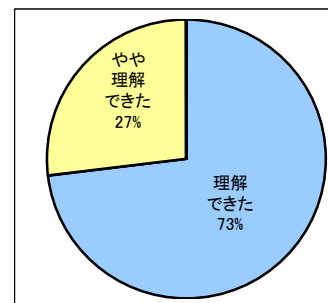
水辺での事故判例をもとに、事故防止の観点について理解する

◆ 講義のポイント

- 1) 水辺活動事故の9割は人的ミスによるものである。
- 2) 危険要因(特に自然環境に関する)は活動開始前だけでなく、活動時間を通して把握しておくことが重要である。
- 3) 事故発生時は時間をかけて対応する時間はなく、迅速で適切な判断が求められる。ヒヤリハット事例、実施記録等を用いて、日頃から情報を収集しておく必要がある。

◆ 参加者アンケートから

- ・ マニュアル作成・見直しの方策を学ぶことが出来た。
- ・ 安全を確保する上で、事前に様々な対策を取る必要性を感じた。
- ・ 事例を通して、安全管理について深く考えることが出来た。
- ・ 事故は明日起きてもおかしくないことであり、再点検に務めたい



(4) 協議「水辺活動における安全管理について」

講師: 松下 雅雄氏、千足 耕一氏、喜入海上保安署、松村 純子

◆ 協議内容

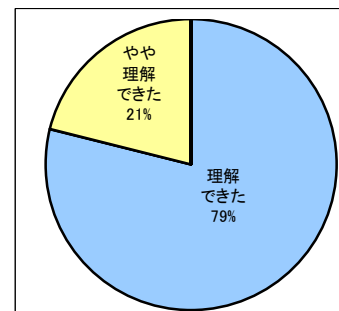
各講師から安全についての考え方の再確認、参加者からの質疑

◆ 協議のポイント

- 1) 海の正解は0点か100点である。一つでもミスがあり事故が起きれば0点である。事故を未然に防ぐ為にも危険事項、禁止事項を事前に正確に伝える。
- 2) 事故があつたらまず118番に電話をする。
- 3) 事故事例や各種資料を知識化し、指導者が自力を付けることで事故を未然に防ぐ。

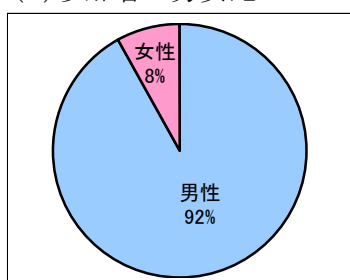
◆ 参加者アンケートから

- ・ 実際の事故事例から協議していく事で、自施設で取り組むべきことが見つかった。
- ・ 離岸流の場所についての見分け方、ポイントが理解できた。

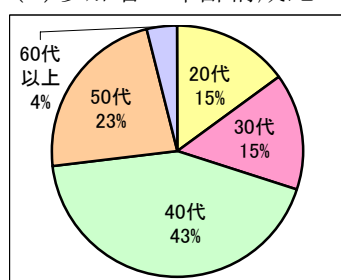


3. アンケート集計

(1) 参加者の男女比



(2) 参加者の年齢構成比



国立施設職員: 16名
公立施設職員: 7名
民間団体等職員: 3名
学生: 1名

(3) 事業全体の満足度

